

女性医師・研究者支援基金

Support Center for Women Health Care Professionals and Researchers



東京女子医科大学

Tokyo Women's Medical University

女性医師・研究者支援基金につきまして、多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを心より感謝申し上げます。これからの社会において多くの女性医療者たちが活躍できるよう、深いご理解とご関心をお寄せくださる皆様から賜りましたご芳志に深謝するとともに重ねて心からお礼申し上げます。

多くの指導的立場となる優れた女性医師・研究者を育成し、価値ある業績を積み重ね、将来の日本の医療に貢献するために役立てて参ります。今後とも何卒ご支援とご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

女性医師・研究者支援センター

Support Center for Women Health Care Professionals and Researchers

アニュアルレポート2013 Spring

Annual report

○ ご寄付合計金額 **39,660,000円** (平成25年3月末現在)

○ ご芳名一覧(五十音順) 平成24年1月から平成25年3月末まで

- 石川直樹様 ○伊東香様 ○伊藤久様 ○今本千衣子様 ○貝谷奈津子様
- 小池弘幸様 ○澤島さやか様 ○篠崎徹様 ○瀬山俊一様 ○伏見悦子様
- 山本洋史様 匿名15名

○ 募集要項

- 目的・・・女性医師・研究者支援事業のための経費
- 目標額・・・3億円
- 対象・・・法人：1口の金額を特に定めておりません
個人：1口2万円(多数のご支援をいただけますと幸いです。)

*申込方法、振込方法、免税措置(企業等法人、個人)など、寄付に関する詳細につきましては、下記までお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。

東京女子医科大学 女性医師・研究者支援センター

〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1

TEL:03-3353-8111(内線:39919) FAX:03-5369-8687

E-mail:w-support.bm@twmu.ac.jp http://www.twmu.ac.jp/w-support/



女性医師の診療継続および女性研究者の研究活動を支援し、子育てなどのライフイベントと診療・教育・研究を両立しつつ、キャリア形成を継続できる環境を整備します。

ごあいさつ

Annual report 2013 spring

女性医師・研究者支援センター センター長

東京女子医科大学 男女共同参画推進局 女性医師・研究者支援センターが発足して5年目を迎えました。当センターは、ふたつの事業を行っております。ひとつは多様な勤務形態の整備による女性医師・女性研究者のキャリア形成支援、もうひとつは子育て支援です。「高い知識・技能と病者を癒す心を持った医療人の育成を通じて、精神的・経済的に自立し社会に貢献する女性を輩出すること」という本学の建学の精神に沿って、さまざまなライフイベントと研究・診療の両立実施が可能な体制を構築し、困難に直面する女性医師に研究の遂行や診療の継続を可能とするシステム形成を行っております。

女性医師・女性研究者のキャリア形成支援としては、女性医師・研究者支援制度（育児・介護時期の支援として、短時間勤務制度の適用と研究費の支給）や優れた女性医学研究者への研究奨励としての「佐竹高子女性医学研究者研究奨励金」、「宮原敏基金」および女性医師研究者の勤務継続支援としての短時間勤務制度を運用しています。支援対象者への研究資金は、平成18-20年度までは文科省科学技術振興調整費を、平成21年度からは卒業生、学生のご父母の皆様、教職員からの寄付による「女性医師研究者支援基金」にて措置しています。平成24年度までに延べ24名が支援を受け、育児中の女性研究者がキャリアを中断することなく、最大3年間の支援期間中に論文14件、学会発表29件と、確実に業績を残すことが出来ています。

子育て支援としては、本学は平成5年から附属保育所において、行政サービスでの対応が不十分な保育支援（待機児・延長・夜間・休日）を開始しておりました。そこに、平成18-20年度の文部科学省科学技術振興調整費「保育とワークシェアによる女性医学研究者支援」事業のひとつとして病児保育の体制を強化して保育支援を開始しました。さらに柔軟な支援に向けて、平成21年度より文部科学省「周産期医療環境整備事業（人材養成環境整備）」の「男女共同参画型NICU人材養成プログラム—地域とささえあう周産期医療—」にて、本学独自の特色ある体制として「女子医大ファミリーサポート」を構築しました。ファミリーサポートでは、施設型保育では対応が困難な各人のニーズに合わせた個別保育や、行政サービスの隙間を埋めるオーダーメイド保育支援を実施しております。本サービスの提供開始の平成23年度に362件、平成24年度には1,722件と増加傾向であります。

これらの支援策の充実によって、厳しい時期にも医学研究、医療を継続するという女性医師自身と周囲の意識改革の進展という効果が出てきていると思います。本学における女性医師・研究者の支援体制をさらに発展させ、指導的立場となる有能な人材がキャリア形成を中断することがないような体制を整備していくこと、さらに他の大学や病院における育児支援と女性医師・研究者支援のモデルとなる体制の構築を目指して、男女共同参画推進局 女性医師・研究者支援センターが尽力しております。引き続き、皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。

本事業をご支援くださっている皆様、特に男女共同参画推進局スタッフ、院内保育所の皆様、ファミリーサポートの皆様にご心から感謝申し上げます。



遺伝子医療センター
所長・教授 斎藤加代子

女性医師・研究者支援センター 副センター長

女性医師の割合は、現在若い世代では、30%台を占め、これからの医療を女性医師が相当程度担うことになります。その一方で、若い世代の女性医師が高率に離職し、大学病院を去っているのも現実です。離職理由はさまざまですが、多くの場合、直接的な理由は妊娠・出産、育児であることが種々の調査からも裏付けられています。

女性医師の離職の背景には、女性の価値観が多様化し、仕事、家庭人、趣味、など複数の方向性があり、必ずしも仕事が優先されないことや、わが国には伝統的性別役割分担意識が根強く、たとえ医師という特別な資格を持っていても、女性が家庭にとどまることを社会が容認しやすいことがあります。また、過重労働・長時間勤務の職場には、育児中や心身の不調などを抱えた場合、「ついていけない」のに加え、現場にもゆとりがないためカバーしきれない現状があります。

女性医師の離職を防ぎ、復職を促すことは、単に女性医師の問題にとどまりません。女性医師を支援することで、勤務医の増加や就業環境の改善につながり、社会資本としての医療を安定的に提供するための手立ての1つとなると考えます。

本学は長い歴史と伝統を持つ、女性のための医科大学であり、数多くの女性医師を輩出し、早くからさまざまな女性医師の就業支援システムを構築していることから、学外からも注目されています。女性医師の就業支援については、多様な短時間勤務制度を整備しています。具体的には、妊娠・出産、子育ての時期にあたる医療職研修生を対象とした短時間勤務制度に加え、助教以上を対象とした短時間勤務制度では介護など、子育て以外の理由にも配慮しています。また、宮原 敏先生の基金による、臨床上の特殊技能などの取得のための短時間勤務制度も運用されています。

これらの制度を活用して、女性医師がその資質を十分に生かし、医療の担い手となって、長期にわたって活躍することが期待されます。女性医師が継続的に医師としての責務を果たすことができるよう、当センターでは多面的なサポートを行って参ります。皆様のご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



女性生涯健康センター
副所長・教授 檜垣祐子

女性医師・研究者支援センター 副センター長

近年、女性医師の増加に伴い全国的に男女共同参画の活動が進み、女性医師の活躍がますます注目されるようになってまいりました。また、広く一般社会においても、少子高齢化社会の中で女性が果たす役割はより大きくなりつつあります。このように、女性への期待感が高まる現代において、仕事と家庭の両立のために、保育支援、勤務形態の多様性（短時間勤務やワークシェア）、職場の意識改革、自己の意識改革、キャリア支援、キャリア教育などの重要性がクローズアップされ、一般企業においては女性の登用は企業戦略であるということがマスメディアで取り上げられる機会も増えました。

本学は、医学・医療の分野において、全国に先駆けて様々な試みを積極的に取り入れ、特に、女性医師・研究者支援センターは仕事と育児を両立しながらキャリアを継続するための支援を多角的に行い、多くの女性医師を支えてまいりました。本学はこれからも、時代に応じたニーズに柔軟に対応しつつ諸先輩方が築きあげてこられた医師としての基本的な姿勢や伝統を守りながら、多くの女性医師を育成していきたいと考えています。今後とも温かいご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



総合研究所
准教授 竹宮 孝子

センター概要

多くの指導的立場となる優れた女性医師・研究者を育成し、価値ある業績を積み重ね、将来の日本の医療に貢献することを目指して、平成21年4月に「女性医師・研究者支援センター」を設立いたしました。子育てなどのライフイベントと診療・教育・研究を両立し、キャリア形成を継続できる環境を整備します。



平成25年5月現在

センターの事業

女性医師の診療継続および女性研究者の研究活動を支援する事業を行います。

- キャリア形成支援事業 …… 女性医師・研究者の育成支援
- 勤務体制検討事業 …… 勤務体制、勤務環境の検討と整備
- 保育支援事業 …… 院内保育所の充実、ファミリーサポートの運営支援
- 他大学との連携事業 …… 学内外の女性医師・研究者同士の情報交換の場の構成
- 社会への啓発事業 …… センターの広報

短時間勤務制度 支援内容一覧

女性臨床系教員のためのテニユアトラック 宮原敏基金による「女性臨床医師支援」

故・宮原敏氏(本学昭和7年卒業)の遺贈により設立された基金をもとに女性臨床系教員が学位取得・専門医取得・診療上の特殊技能取得などキャリア形成を図るために設けられた短時間勤務制度です。准講師以上あるいは卒後10年以上の東京女子医科大学の将来を担う優れた臨床実績を有するか、あるいは臨床能力・技能の優れた女性臨床系教員を対象に1年間の支援を行います。短時間での勤務を継続しながら、自身が定めた目標のための時間が確保できるため、充実した環境の中でさらなるキャリアと向き合い・取り組んでいける支援となっています。

優れた女性医学研究者への研究奨励 佐竹高子女性医学研究者研究奨励金による「女性医学研究者支援」

故・佐竹高子氏(本学昭和8年卒業)の遺贈により設立された基金から女性医学研究者研究奨励金として優れた女性医学研究者が研究と育児を両立できるよう設けられた短時間勤務制度です。必ずしも育児に限らず、介護等の事情も考慮されます。期間は1年ですが、女性医師・研究者支援基金による「女性医学研究者支援」とあわせ最大3年間の支援を受けることができます。出産・子育てといったライフイベントをむかえながら、医師としてのキャリアを継続できる支援です。

女性医師・研究者支援基金による「女性医学研究者支援」

当センターの活動にご理解・ご賛同をくださった方々からのご寄付によって成り立っている基金であり、佐竹高子女性医学研究者研究奨励金と同様に優れた女性医学研究者が研究と育児を両立できるよう設けられた短時間勤務制度です。必ずしも育児に限らず、介護等の事情も考慮されます。期間は1年ですが、再応募により最大で3年間の支援を受けることができます。出産・子育てといったライフイベントをむかえながら、医師としてのキャリアを継続できる支援です。

「女性臨床医師支援」、及び「女性医学研究者支援」の対象者募集は、毎年10月頃を予定しています。

臨床系教員の短時間勤務制度

育児や介護等で通常の勤務が困難となった臨床系教員のための支援です。助教以上の臨床系教員で継続的な勤務が困難となった人や、小学6年生までの子の育児を必要とする人を対象としています。1回の申請で1年の取扱いとし、原則3年まで支援を受けることができます。男性医師も支援を受けることが可能です。

医療練士研修生の短時間勤務制度

医療練士研修生(大学院生を除く)の子育て支援です。小学6年生までの子の育児を必要とする人を対象としています。1回の申請で1年の取扱いとし、原則3年まで支援を受けることができます。男性医師も支援を受けることが可能です。

詳細は、女性医師・研究者センターのホームページに掲載しております。
<http://www.twmu.ac.jp/w-support/index.html>

活動報告

2013

- 1月11日 (金) 平成25年度 宮原敏基金・女性臨床医師支援応募締切
平成25年度 女性医学研究者支援応募締切
- 1月15日 (火) 女性医師・研究者 定例研究報告会
- 1月22日 (火) 院内保育所ミーティング
- 1月24日 (木) 平成25年度 支援対象者審査
- 2月5日 (火) 院内保育所ミーティング
- 2月23日 (土) ファミリーサポート室 運営委員会
- 3月12日 (火) 女性医師・研究者 定例研究報告会
- 3月19日 (火) 平成25年度 支援対象者オリエンテーション
院内保育所ミーティング

2012

- 1月11日 (水) 平成24年度 宮原敏基金・女性臨床医師支援応募締切
平成24年度 女性医学研究者支援応募締切
- 1月19日 (木) 平成24年度 支援対象者審査
- 2月20日 (月) 平成24年度 支援対象者追加審査
- 2月20日 (月) 第11回 女性医師・研究者支援センター運営委員会開催
- 2月22日 (水) 文部科学省「周産期医療環境整備事業(人材養成環境整備)」中間評価
院内保育所 運営委員会
- 3月28日 (水) 女性医師支援シンポジウム打ち合わせ
- 5月21日 (月) 女性医師支援シンポジウム打ち合わせ
- 5月8日 (火) 院内保育所ミーティング
- 5月12日 (土) 至誠父母会 女性医師・研究者支援基金の紹介
- 5月15日 (火) 女性医師・研究者 定例研究報告会
- 5月26日 (土) 研究発表会・交流会/女性医師支援シンポジウム
「将来のこと、今の悩み、一緒に考えてみませんか?」開催
- 6月5日 (火) 院内保育所ミーティング
- 7月3日 (火) 院内保育所ミーティング
- 7月10日 (火) 女性医師・研究者 定例研究報告会
- 8月10日 (金) 広島県による視察
- 9月4日 (火) 院内保育所ミーティング
- 9月11日 (火) 女性医師・研究者 定例研究報告会
- 9月18日 (火) ファミリーサポート室運営委員会
- 9月24日 (月) 第12回 女性医師・研究者支援センター運営委員会開催
- 10月1日 (月) 平成25年度 宮原敏基金・女性臨床医師支援 対象者募集
平成25年度 女性医学研究者支援 対象者募集
支援対象者募集の学内各医療施設・女性医師に向けた広報展開
院内保育所ミーティング
- 10月9日 (火) 院内保育所ミーティング
- 10月12日 (金) 新宿区子ども総合センター訪問(学童保育)
- 11月2日 (金) 三重県による視察
- 11月6日 (火) 女性医師・研究者 定例研究報告会
- 11月19日 (月) 宮崎大学による視察
- 11月20日 (火) 女性研究者研究活動支援事業 合同シンポジウム
活動状況要旨集掲載・ポスター掲示
- 12月4日 (火) 院内保育所ミーティング
- 12月12日 (水) 厚生労働省医政局にて懇談
北海道大学病院による視察、院内保育所見学
- 12月27日 (木) 第13回 女性医師・研究者支援センター運営委員会開催



イベント報告

女性医師支援シンポジウム

「将来のこと、今の悩み、
一緒に考えてみませんか?」を終えて

(平成24年5月26日)



女性医師・研究者支援センター

センター長 斎藤加代子 副センター長 竹宮孝子

5月26日(土)総合外来センター5階大会議室において、女性医師・研究者支援センター主催、本学総合研究所、文部科学省周産期医療環境整備事業共催により、女性医師支援シンポジウム「将来のこと、今の悩み、一緒に考えてみませんか?」を開催しました。午後1時から5時過ぎまでの研究報告、特別講演、公開討論会には大澤真木子副学長、高桑雄一医学部長をはじめ総勢76名の方が、その後の交流会には32名の方がご参加くださいました。ご出席いただいた皆様およびスタッフの皆様には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

まず、研究支援を受けた2名の女性医師、立石実氏(座長:山崎健二教授)と松下典子氏(座長:立元敬子教授)がそれぞれの研究成果を発表し、次に、野原理子氏(座長:内山温准教授)が女子医大ファミリーサポートの取り組みを報告しました。続いての特別講演「企業における女性の活躍」(座長:斎藤加代子)では、株式会社ベネッセコーポレーション執行役員の成島由美氏が、同社における女性登用の取り組み、ご自身のキャリア形成、女性が活躍することの経営効果などを話されました。公開討論会「将来のこと、今の悩み、一緒に考えてみませんか?」(座長:竹宮孝子)では、本学医師8名、他大学医師5名、文科省医学教育課の渡辺真俊氏、ベネッセの成島氏、保育関係者2名を中心に、子供の教育問題等のライフイベントと医師の仕事の両立について活発な意見交換を行いました。本シンポジウムを通して、現状の女性医師問題について共通認識を深めると共に、プロとして責任を持って医師の職務を続け、ライフイベントには適時しなやかに対応することの重要性、今後は大学間、病院間の連携を深め協力し合う必要性を実感しました。また、参加した学生の反応から、学生のキャリア教育としても大きな成果を上げたことがわかりました。今後も女性医師・研究者支援センターの取り組みに対し、皆さまのご理解とご協力を宜しく申し上げます。(大学ニュース平成24年6月号より)

業績一覧

センター運営委員

支援を受けた女性研究者

論文発表

著者名	タイトル	誌名
野原理子,近藤美緒	女性労働者に必要な健康管理のあり方	産業保健21,2012,67,4-6
野原理子,近藤美緒	母性健康管理サイト 妊娠・出産をサポートする女性にやさしい職場づくりナビ	産業看護,2012,4(3),281-282
野原理子	地域住民が職員を支えるファミリーサポート 東京女子医科大学 (インタビュー)	COML,2012,261, 4-5
Nohara M	Factors associated with somatic and psychological stress in Japanese working women	日本の眼科 2011;82(12):1635-1636
檜垣祐子	女性医師のキャリア支援	デルマ倶楽部 11(1):9-10, 2012
三善陽子,竹宮孝子,前川貴伸,和田友香,守本倫子,成田雅美,大園恵一,堀川玲子	小児保健分野で働く女性の職場環境・家庭環境と出産・育児・復職支援体制	小児保健研究71(1):60-66, 2012
野原理子,佐藤文子,奥津康祐,中島範宏,吉川徹	42名医局長インタビューからみえた勤務環境改善視点	医学のあゆみ;242(8):367-630,2012
野原理子	アクティグラフを用いた保育士の睡眠状態の評価および夜間勤務と睡眠状態の関連の検討	日本ウーマンズヘルス学会誌,2012,11,67-71
斎藤加代子	女性医師・研究者に手厚い子育て支援を 実績をあげる女性研究者が次々に誕生	大学ジャーナル, 17(6):10,2012.
野原理子,和氣タイ子,梅野愛子,斎藤加代子	病院内保育所の取組Vol.1 東京女子医科大学(前編)ー歴史と概要	医学のあゆみ,244(2):189-191,2013.
Chisen Takeuchi, Yoh Matsumoto, Kuniko Kohyama, Satoshi Uematsu, Shizuo Akira, Kanato Yamagata, Takako Takemiya	Microsomal prostaglandin E synthase-1 aggravates inflammation and demyelination in a mouse model of multiple sclerosis	Neurochemistry International 62(2013) 271-280
野原理子	働く女性の健康管理の現在 1.母性健康管理をめぐる動向	産業医学ジャーナル,36(2),2013

学会発表

演者	形式	区分	研究会・学会名	タイトル	開催場所	年月日
野原理子		口演	女性医師・研究者支援センター女性医師支援シンポジウム 将来のこと、今の悩み、一緒に考えてみませんか	女子医大で始まった保育支援と研究支援ファミリーサポートの取組報告	東京	2012.5.26
野原理子		ポスター	第85回日本産業衛生学会	42名医局長インタビューによる勤務医の労働時間と業務内容改善視点	名古屋	2012.5.31
檜垣祐子		口演	第111回日本皮膚科学会 「皮膚科の女性医師を考える会」企画討論会	未来につなげよう女性医師とスキルアップ「女性のデリケートゾーンの診察は？」	京都	2012.6.3
野原理子		ポスター	第11回日本ウーマンズヘルス学会	保育士の夜勤は睡眠状態に変化を及ぼすか? -アクティグラフによる客観的評価-	東京	2012.7.14
野原理子・斎藤加代子・楠田聡・内山温時岡一啓・川村正行・梅野愛子・畑英恵		口演	周産期医療に関する専門的スタッフの養成合同公開フォーラム	男女共同参画型NICU人材養成プログラムファミリーサポートの取組み	東京	2012.9.23
内山温・楠田聡・斎藤加代子・野原理子時岡一啓・川村正行・梅野愛子・畑英恵		ポスター	周産期医療に関する専門的スタッフの養成合同公開フォーラム	男女共同参画型NICU人材養成プログラム-地域とささえあう周産期医療-	東京	2012.9.23
野原理子・斎藤加代子・松岡雅人		口演	第24回日本産業衛生学会 産業神経・行動学研究会(日本衛生学会 脳・神経学研究会,日本神経行動毒性研究会 共同開催)	保育士の夜勤は睡眠状態に変化を及ぼすか? -アクティグラフによる客観的評価-	東京	2012.12.8
野原理子 斎藤加代子	シンポジウム	シンポジスト	第5回周産期医療を知る講演会 周産期医療と女性医師支援～女性医師の活躍の場を広げる～		東京	2013.3.12
野原理子・吉川徹・石丸知宏・小林絵梨 磨田百合子・竹内由利子・岡久ジュン 望月麻衣・吉川悦子・松岡雅人		ポスター	第86回日本産業衛生学会	タイムスタディによる大学病院勤務医の勤務実態の検討	松山	2013.5.16

その他

氏名	機関	名称	役職
斎藤加代子	独立行政法人科学技術振興機構(JST)	Science Portal 第74回インタビュー「遺伝カウンセリング-患者に最適な医療目指して」	
斎藤加代子	一般社団法人至誠会	三神美和賞受賞(平成24年6月10日)	
竹宮孝子,堀川玲子	厚生労働省	成育医療研究開発費事業「女性医療従事者の支援に関する研究」の分担研究の成果として、第2回全国小児科医師現状調査報告書	執筆担当
竹宮孝子,竹内千仙	NPO Ejnet	第2回キャリアイノベーションセミナー	企画・司会進行

論文発表

著者名	タイトル	誌名
松下典子,橋本悦子	NAFLDにおける肥満度からみた臨床病理学的特徴	消化器内科 2012;54:6
立石 実	胸部外科医の生活を楽にするiPadの利用 <第5回> Evernote(エバーノート)の活用	胸部外科 65(13) 2012-12, 1155-1159
新井尚希,近藤光子,難波麻衣,落合克律,辻真世子,石井成伸,山田武,斎藤加代子,玉置淳	異所性右鎖骨下動脈による気管狭窄との関連性が疑われた難治性喘息の一例	日本胸部臨床 in press
松下典子,谷谷麻紀子,橋本悦子	女性の肝癌は増加しているか(依頼原稿)	肝胆膵 2012;65(6):992-1002
立石 実	胸部外科医の生活を楽にするiPadの利用 <第6回>「クラウドの活用」	胸部外科 66(1) 2013-1, 85-89

学会発表

演者	形式	研究会・学会名	タイトル	開催場所	年月日
松下典子,谷谷麻紀子,橋本悦子,児玉和久,吉岡容子,小木曾智美,鳥居信之,徳重克年,白鳥敬子	優秀演題候補口演	第5回日本性差医学・医療学会	原発性胆汁性肝硬変と生活習慣病合併・肝発癌における性差に関する検討	東京	2012.2.4
新井尚希,辻真世子,杉田知妹,相澤豊明,藤原朋子,畠山修司,武山康	口演	第52回日本呼吸器学会学術講演会	当院における外来気管支喘息患者の検討	神戸	2012.4.22
松下典子,橋本悦子,徳重克年,水野愛名,児玉和久,小木曾智美,鳥居信之,徳重克年,白鳥敬子	口演	第48回日本肝臓学会総会講演要旨	慢性肝疾患における血清OCT値の臨床的意義	金沢	2012.6.7
松下典子,谷谷麻紀子,橋本悦子,児玉和久,小木曾智美,鳥居信之,徳重克年,白鳥敬子	口演	第20回日本消化器関連学会週間	NAFLDにおける肥満度からみた臨床病理学的検討	神戸	2012.10.10
新井尚希,近藤光子,落合克律,難波麻衣,奥出梓,武田奈生子,切土紗織,宮本由香里,辻隆夫,中田潤子,多賀谷悦子,玉置淳	口演	第62回日本肝アレルギー学会秋季学術講演会	異所性右鎖骨下動脈による気管狭窄が疑われた難治性ぜんそくの一例	大阪	2012.12.1
立石実,板谷慶一,宮崎翔平,長嶋光樹,平松健司,松村剛毅,小沼武司,豊田泰幸,中山祐樹,山田有希子,加久雄史,早川美奈子,梅津光生,齋藤加代子,山崎健二	口演	第43回日本心臓血管外科学会学術総会	右室流出路再建後遠隔期狭窄における狭窄形態と血流動態からみた重症度評価と治療戦略	東京	2013.2.25

その他

氏名	機関	名称	役割
村岡真理,立石実,會田久美子	日本医師会	女性医師のキャリア支援DVD「私の選択」(心臓血管外科,小児科)	
松下典子	東京女子医大消化器病センター医局ニュース	女性医師・研究者支援センター研究発表会 女性医師支援シンポジウム開催 報告	10月号 in press
立石 実	栃木県心臓病の子どもを守る会	秋の医療講演会「子どもの心臓病・最近の話題」	2012年11月18日
松下典子	日本消化器病学会	第323回日本消化器病学会関東支部例会	座長

著者名

著者名	タイトル	誌名
	子育て支援とワークシェアで女性研究者をサポート	Medical Tribune
	女性医師のキャリア継続支援に取り組む	Medical Tribune41(19):52-53, 2008
	女性医師の支援をー東京女子医大の取組みー	元気がいいねNo.50
	女性医師研究者の多様な勤務体制	最新医療経営 フェイズ・スリー;301:19, 2009

支援を受けた 女性研究者たち

平成24年度に支援を受けた研究者は3名。

それぞれ異なる分野で活躍している医師であり、研究者でありながら、母となったことをきっかけに仕事と子育ての両立を前向きに捉え、支援を受けながら医師としてのキャリアを継続することを選択されました。3人のさまざまなチャレンジが多くの方々の心に響き、励ましとなることを期待しています。

学歴

・愛知県立岡崎高等学校
・東京女子医科大学医学部医学科(平成10年卒業)
東京女子医科大学大学院医学研究科(平成16年卒業)

今後の目標・夢

基礎研究で発見・開発された結果を臨床医学に応用し、早い段階での臨床研究を行う医療の実践(バイオマーカーの開発、治療予測因子、治療方法等)を目指し、還元できるトランスレーショナルリサーチを目標に、肝疾患の診療に繋げていけたらと考えております。

女性研究者の紹介 消化器内科 松下典子

私は、東京女子医大を卒業後、同病院研修医、同大学院を経て消化器内科教室で、助手として肝臓分野の研究に携わっていました。卒後7年目、夫の研究留学のため家族で渡米いたしました。当初は双子の息子(3歳)たちの育児や生活のセットアップのため一旦休職しましたが、保育所も見つかったことから、半年後にペンシルバニア大学の研究室で研究を開始しました。研究内容は肝星細胞(伊東細胞)を用いた肝線維化メカニズムの解明でした。その後、夫の研究室移動に伴いロサンゼルスに転居し、南カリフォルニア大学で非アルコール性脂肪肝炎(NAFLD)のマウスモデルにおける病態・機序の解明について基礎研究を続け、卒後12年目に帰国しました。米国では異国での生活で当初は四苦八苦しましたが、ワーキングマザーへの考え方など育児に対する社会環境が整っていることもあり、なんとか研究と家庭の両立にこぎつけることができました。最先端の研究に参加でき、学べる喜びは大きいものでした。帰国後も同様に両立ができないかと模索していた際に、母校である本学でこの支援システムに出会うことができ、お陰様で子育てと共に、研究を継続できる環境に恵まれましたこと心より感謝しております。現在、消化器内科学教室において、我が国でも最も多い肝疾患となったNAFLDを始めとした肝疾患の臨床研究に携わらせていただくと共に、マウスモデルを用いた基礎研究において、微生物免疫学教室と共同研究をさせていただき、病因・病態の解明から、診断・治療につなげるトランスレーショナルリサーチを目指しております。さらに当教室では消化器疾患における性差医療の研究にも力を入れており、肝疾患における性差の研究もすすめております。

profile

職歴

東京女子医科大学病院消化器内科研修医、
至誠会第2病院消化器内科、東京女子医科大学消化器内科助手、
保健医療公社久保病院消化器内科医員、Gastroenterology Division,
University of Pennsylvania School of Medicine 客員研究員、
The Southern California Research Center for ALPD and Cirrhosis,
Keck School of Medicine of the University of Southern Californiaポスドクフェロー、
東京女子医大消化器内科兼任女性医師研究者支援センター特任助教

メッセージ

医学生時代から、数々の女性医師の先輩方よりご助言いただき、改めて実感していること、それは仕事、研究をできるかぎり「継続し、辞めないこと」。自身の経験からもライフイベントにより、一旦の休職は止むを得ないと思いますが、可能な限り早い復帰をおすすめしたいと思います。近年、育児や介護と仕事の両立に対し、当院を含め社会環境も整いつつあり活用できる勤務形態、制度があります。両立のためのこれらの情報収集も重要ですが、幸い女子医大は多彩なロールモデルの宝庫でもあります。私も多くの方々のアドバイスに支えられ、乗り越えてくることができました。是非様々な方にご相談下さい。ライフイベントを迎えても、多くの女性医師・研究者が目標に向かって頑張ることのできる時代がきているのではと思います。



女性研究者の紹介

心臓血管外科 立石実

私の専門分野は、心臓血管外科の中でも、生まれつき心臓に病気のある「先天性心疾患」です。少し前まではそのような病気の子供達の命を救うことが最優先でしたが、急速な医療技術の進歩により、ほとんどの病気が助かるようになりました。しかし一方で、手術で命を救うことができても、手術の数年～数十年後に様々な問題が生じることがあり、「助けること」を目指す手術から「よりよく生きること」を目指す手術が求められてきています。私の研究テーマの「先天性心疾患の外科治療における数値流体力学による解析に基づく検討」は、血流のシミュレーションなどを行うことによって「よりよく生きるための」手術を考え、工夫するための研究です。

profile

職歴

2000年 東京女子医科大学 心臓血管外科 入局、
立正佼成会附属佼成病院、聖隷浜松病院、
富山県立中央病院、京都府立医科大学病院に
出向し、2009年より現職。外科専門医、心臓血管外科専門医、
循環器専門医。

学歴

長崎県立長崎北高校、
熊本大学医学部（平成12年卒業）

今後の目標・夢

心臓血管外科は、正直に言うと、女性医師にとっては過酷な労働環境で、育児を両立しながら心臓血管外科医を続けていくのはチャレンジであり、今後も苦難があると思います。でも、そのような状況でも「続けていきたい」という魅力を感じており、私たちがいた後に、心臓血管外科を目指す女性医師のために少しでも「道」ができるのであれば、頑張りたいと思っています。失敗も含めてリアリティのある、身近なロールモデルを目指したいと思っています。

メッセージ

「患者さんに優しい医療」を考える上で「女性の視点」は今後ますます重要になると思います。研究、臨床など、「柔軟さ」があれば、ライフステージに合わせて自分のやりたいことを見つけて活躍する場がたくさんあるのが、医師の仕事の素晴らしいところだと思うので、たくさんの女性に目指してほしいと思います。



女性研究者の紹介

呼吸器内科 新井尚希

大学院生の時はCOPDの喀痰分泌についての研究を東京女子医科大学呼吸器永井厚志教授のもとでさせていただきました。その経験からwestern blottingやERISA、PCRなどの手法を使い、放線菌の肺膿瘍形成の機序について研究させていただきました。人での放線菌肺膿瘍は診断までに時間がかかり、なおかつ放線菌系統に関しては診断できていないことが多いです。今回微生物学免疫学の八木淳二教授や柳沢直子先生のご指導のもと実験させていただき、放線菌の系によって感染しやすさの違いがあることがわかりました。呼吸器の教科書的には口腔内常在菌である放線菌は虫歯がある人では放線菌肺膿瘍を形成しやすいということでしたが、う歯などは多くの人がかかる疾病です。それにもかかわらず放線菌感染が成立する人はごく少数であり、なぜだろう？という疑問を解決してくれました。

profile

職歴

平成15年 東京女子医科大学腎センター外科系研修医
平成16年 東京女子医科大学呼吸器センター研修医
平成17年 東京女子医科大学呼吸器センター医療練師
平成22年 東京都保健医療公社大久保病院
平成24年 東京女子医大呼吸器センター助手

学歴

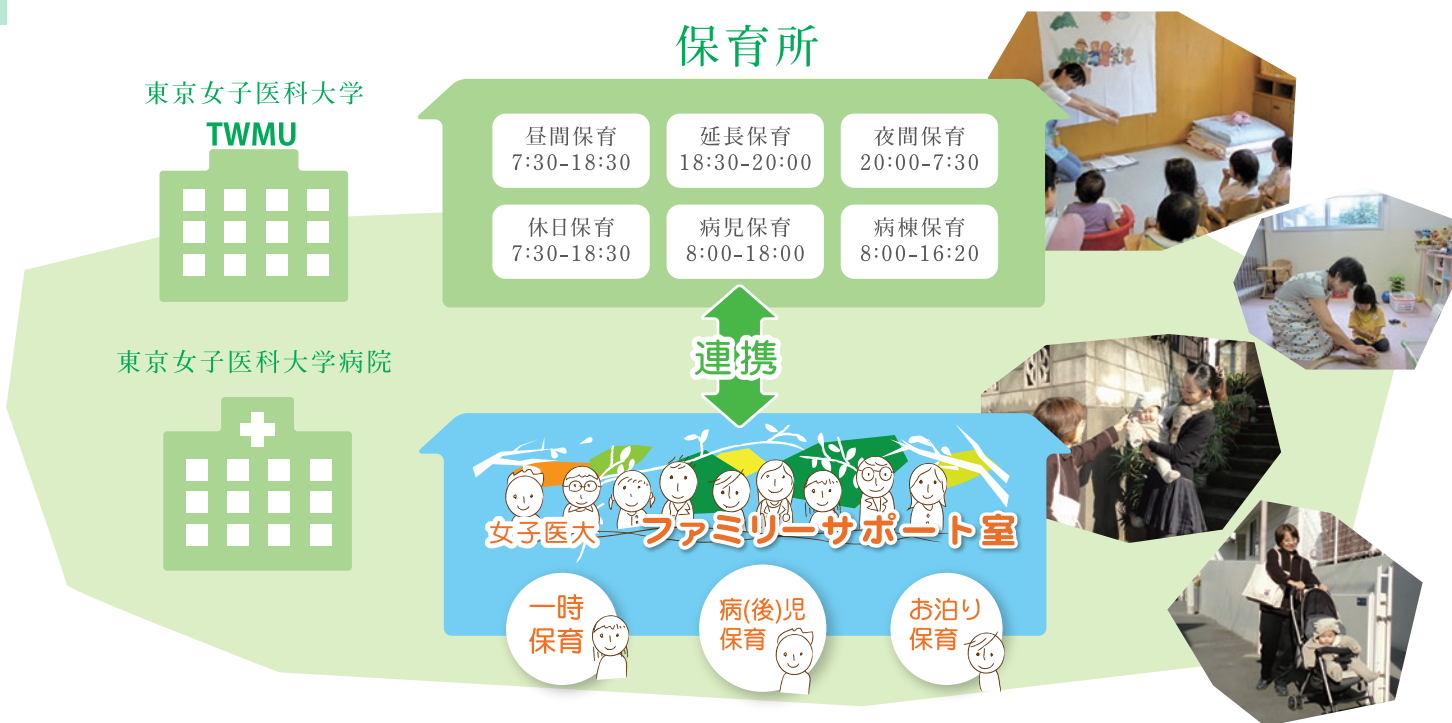
東京女子医科大学医学部（平成15年卒業）
東京女子医科大学医学部大学院第一内科学
（平成22年卒業）

今後の目標・夢

医師、研究者、母、嫁などおおくのわらじをはきわけて、働き続けられるといいなと思います。

メッセージ

研究は始めるとやめがたい魅力があります。少し敷居が高い感じがありますが、一度一歩踏み入れてもらえるとうれしいです。



1 院内保育所

	昼間保育	延長保育	夜間保育	休日保育	病児保育
対象	2か月～就学前の待機児				3か月～3年生
時間	7:30-18:30	18:30-20:00	20:00-7:30	7:30-18:30	8:00-18:00
料金 (1時間)	200円 2年目以降300円	300円 2年目以降350円	400円	300円 2年目以降350円	500円

年間行事

- 5月 避難訓練
- 7月 たなばた、お誕生日会(5,6月)、避難訓練
- 8月 お誕生日会(7,8月)
- 9月 お誕生日会(9月)、避難訓練
- 10月 ミニ遠足、バザー、ハロウィン、お誕生日会(10月)
- 11月 お誕生日会(11月)、避難訓練(引き渡し訓練)
- 12月 クリスマス会、お誕生日会(12月)
- 1月 避難訓練
- 2月 豆まき、お誕生日会(1月)
- 3月 ひな祭り会、お別れ遠足、お誕生日会(2,3月)、避難訓練

研修

- 6月 リスクマネジメント研修 参加者 6名
- 7月 全国病児保育研究大会 参加者 11名

その他

- 保育所だより発行(毎月)
- 至誠会保育園の行事への参加

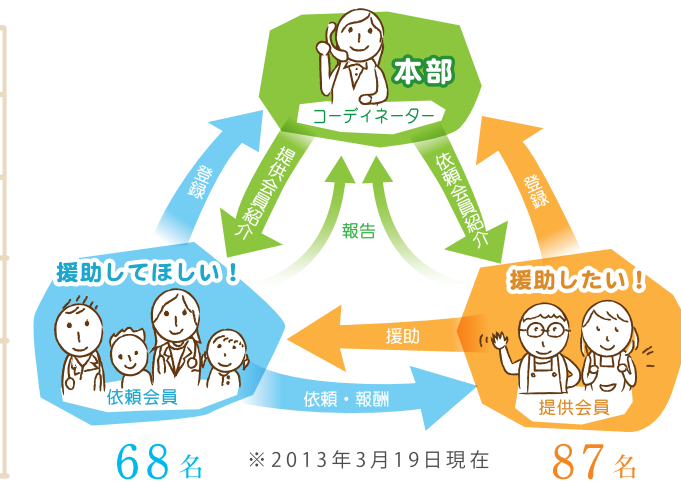
保育所利用者数

2013年	1月	2月	3月
昼間保育	393	488	532
延長保育	88	117	73
夜間保育	67	49	29
休日保育	11	13	15
病児保育	13	19	30

2 ファミリーサポート

職員が仕事と家庭を両立するための一環として、地域の人々から子育て支援を受け、家族の福祉の向上を図ることを目的とした会員相互の援助活動

	一時預かり保育	病(後)児保育	お泊り保育
場所	依頼会員の自宅 提供会員の自宅	依頼会員の自宅	提供会員の自宅
対象	生後おおむね 2か月～15歳	1歳～6年生	1年生～6年生
時間	7:00～22:00	8:30～18:00 土日祝日はなし	19:00～7:00
料金	1時間800円 19:00以降900円 (兄弟の2人目 以降は半額)	基本1時間1,000円	1泊18,000円 (兄弟の2人目 以降は半額)



活動実績

保育サービス講習会	提供会員になるための基本講習。全30.5時間を受講し修了証を受けた者が提供会員となる。【6月、11月】全30.5時間：開成式、保育の心、子どもの心の発達とその問題、子どものあそび、子どもの事故と安全、からだの発達と病気、障害をもった子どもの預かりについて、普通救命講習、子どものくらしとケア、子どもの栄養と食生活、病児保育とリスクマネジメント、保育サービスを提供するために、修了式
スキルアップ研修会	提供会員の継続的なスキルアップを図る。【7月、2月】ヒヤリハット事例の検討、ワークショップ
全体交流会	提供会員と依頼会員および登録希望者の交流を図るイベント【9月】リコーダー＆ギターアンサンブル親子コンサート
全体研修会	会員をはじめとする地域の方々のための育児支援についての講習会<一般公開講座>【12月】新しい子育て支援の展望 -「アウトリーチ」と「ホームビジティング」を巡って 西郷泰之先生(大正大学人間学部教授)
その他	ファミリーサポート通信発行【5月、10月、3月】自治体、大学、大学病院、メディアからの取材シンポジウム、講演会等での発表

活動件数および内容

会員数：依頼会員69名／提供会員87名(2013.3.31現在)



	2012年												2013年					
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
保育園等の入所前の預かり	1																3	4
保育園・幼稚園の送り	4	5	4	24	10	17	22	19	16	21	17	17	12	13	16	217		
保育園・幼稚園の迎え	10	11	19	23	19	15	52	43	39	76	73	50	59	56	64	609		
保育園・幼稚園の登園前の預かりと送り	16	14	12	17	26	17	20	41	20	20	35	33	20	20	19	340		
保育園・幼稚園の迎えと帰宅後の預かり	3	3	6	8	19	23	27	9	20	21	23	19	19	19	23	242		
学校の送り																0		
学校の迎え																0		
登校前の預かりと送り				14	14	13	10	4	9	13	17	10	12	15	12	143		
下校後の預かり				1	2	2	1	1		2	2	2	1	4		2	20	
学校から学童保育への送り																0		
学童保育の迎え																0		
学童保育から帰宅後の預かり																0		
保育園・幼稚園・学校等のお休み時の預かり	4	3	4	3	2	7	2	2	4	3	3	6	5	5	3	56		
子どもの習い事・塾等の送迎	4	5		6	7	5	8	2	5	8		3	6	3	2	64		
他の子どもの学校行事・通院時の預かり					2	6	2		3	5	6	4	10	7	7	52		
病児・病後児保育				3					1	1	1	1				7		
保護者の臨時的就労の場合の預かり	3			2	1	2						2	9	11	16	46		
保護者の学会・研修会参加時の預かり	4	1		2		2	4	2			2		6	2		25		
保護者の病気の預かり(出産前後等も含む)		2	4	2						3						11		
保護者の外出時(冠婚葬祭・旅行等)の預かり	2	1	6	6	2	1		3	3	3	3	4	1	5	6	46		
その他	1		1													2		
	51	45	67	111	106	109	148	126	122	175	182	150	163	156	173	1884		